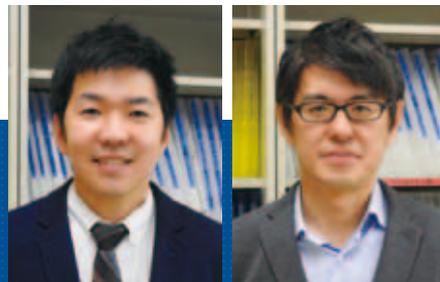


「文理選択」と「将来の進路」との “距離感”が縮まる

東京都
海城中学高等学校

学習指導部 副部長 宮崎 篤先生(左)
高校第一学年 主任 渡邊 聡大先生(右)



海城中学高等学校は、開校から126年の伝統を誇る完全中高一貫制の男子校です。伝統校でありながら、“課題設定・解決能力”を養うための「生徒参加型授業」の積極的導入、“新しい人間力”（コミュニケーション能力・コラボレーション能力）を学ぶための「体験学習」の実践、国際社会においてリーダーシップを取れる人間の育成に重きを置いた「グローバル教育」の展開、等、先進的な教育カリキュラムが特色となっています。



—「進学適性検査 GAKUTAN」(以下GAKUTAN)は、何年生を対象に、いつ頃実施されましたか？
また、ご活用の目的は？

宮崎先生 高校1年生全員330名超を対象に、(2016年)5月の中間考査の期間中に実施しました。

渡邊先生 本校は中高一貫校で、高校入試がありませんから、高1の1学期は、生徒はのんびりしがちです。この時期は勉強も始めなければならない、という気持ちを持つと同時に、文理についても真剣に考えだす生徒が多いのですが、その高2から始まる文理の選択と、将来の職業にはまだ乖離(かいり)があるものです。そのため、生徒が自分の進路を考えるきっかけを作り、文理選択と将来の進路との間の“距離感”を縮めるために、「GAKUTAN」を実施しました(表1参照)。また、判定結果のコメント等が細かく、フィードバックのしやすさも検査採択のポイントとなりました。

—判定結果は、いつ頃、どのようにフィードバックしましたか？

宮崎先生 まず、生徒には7月に「生徒用アドバイスシート」を返却しました。また、10月の個人面談の際に、改めて判定内容について話し合った先生もいたようです。さらに、同じ時期に開かれた保護者会で、保護者に対して、教師用の「一覧表・統計表」を基に、クラスの状況を説明しました。

表1 文理コース選択までの指導の流れ

5月……「GAKUTAN」実施
7月……「GAKUTAN」生徒用アドバイスシート返却
1学期末…夢ナビライブ、マイナビ進学フェスタ等参加 (夏休み……文理コース希望について塾考する)
9月……OB講演会開催
10月……コース選択予備調査実施 個人面談、保護者会
12月……コース選択本調査実施

—判定結果を返却した際の、生徒の反応はいかがでしたか？

宮崎先生 「個性を知る」という項目で、「能力」「興味」「性格」が数値化されることに反応した生徒が多かったです。特に「性格プロフィール」の“達成力”“社会性”“共感性”などといった項目は、自分ではどれだけ身に付いているのか測れないので、興味深かったようでした。また、「能力プロフィール」は、必ずしも学校の定期考査の成績とはリンクしないのですが、普段の成績があまり高くないのに、この検査の「能力」は高得点が出た生徒などは、自信につながったようです。さらに、「適性を探す」という項目で、25の学問分野の「学問適性」を測る部分では、想定外の分野に高い適性が出た生徒は、新たな発見ができたといったクラスの反応もありました。

▲一覧表・統計表(教師用)

▼アドバイスシート(生徒用)

一生徒の文理コース選択に、GAKUTANはどのように役立ちましたか？

渡邊先生 基本的に、検査の結果だけで自分の進路を決めるという生徒はいません。検査を実施することで、自分の進路を考えるきっかけになったということが一番の成果でした。そういう意味では目標は達せられたと思います。

宮崎先生 コース選択の際に、判定結果を参考にした生徒もいれば、逆に、自分の考えとは違う文理適性が出て、困惑した生徒もいました。いい意味でも悪い意味でも、参考になる資料ではありました。

一文理判定が検査と生徒の希望とで異なった場合、どのように指導されましたか？

宮崎先生 「この結果がすべてではないよ」と、何度も何度も面談を重ねて話し合いました。最終的には本人の意思で決めさせましたが。

渡邊先生 クラス数が多いので、事前に各先生方と話し合ってから、判定結果をフィードバックしました。文理どちらにも適性が出ていない生徒には、こんな風に言葉がけして元気づけてあげようとか、教師間での共通理解を持つことが大切であると考えました。

一保護者に対しては、判定結果をどのようにフィードバックされましたか？

宮崎先生 「一覧表・統計表」の「学習活動」や「文理判定」などを独自に表にまとめ直して、保護者会で説明しました(表2参照)。非常に興味深く聞いていただき、評価も高かったです。さらに、自分のクラスでは、検査とは別に生徒にアンケートをとって、その結果も発表しました。「文理選択で迷っているか」「保護者と相談しているか」等の回答結果を出し、実は保護者と相談していない生徒が多いことが

わかったので、「よく話を聞いてあげてください」とアドバイスを差し上げたりもしました。

表2 GAKUTANの判定結果からの集計(一部)

GAKUTAN 進学希望(第1希望の学問分野)	
・医療の専門知識	10人
・機械一般の研究	6人
・都市基盤システムの研究	3人
・法律・政治の専門知識	3人
・文化、経済、社会組織の運営、 国際社会、数学、自然科学など	2人

一その他に1年生でのキャリア教育の取組についてお教えください

渡邊先生 一学期末に、外部の企業が行っている「マイナビ進学フェスタ」や「夢ナビライブ」などのイベントに行かせたりしましたが、参加企業に偏りがあるため、生徒の希望と合っていない面もありました。そこで、文系、理系、医系別に現役大学生のOBを集めて、講演会を開きました。彼らには、差し迫っている職業選択への悩み等の内容を話してもらいました。自分の学校のOBということで、親近感があり、話にも説得力があるので、文理選択の少し先の進路に、生徒の目線を向けさせるよい機会になりました。また、今後は、少し上の28、29歳位の世代のOBや、生徒の保護者を招いて、実際の仕事の内容等を話していただく予定です。

2017年4月取材／実務教育出版